

第91回 小中高校生の吃音のつどい（お料理教室）

2026年3月29日(日)、都内北区立赤羽小学校ことばの教室、家庭科室、ランチルーム等を終日お借りして、実施できました。合計95人(小学生16人、中学生4人、高校生5人、吃音ではない兄弟姉妹5人、ご両親30人、スタッフ35人)が参加。

会場校の井上利香先生、直井真由美先生には、事前の、赤羽小での試作会やスタッフミーティング等でもお世話になり、ありがとうございました。北区からは赤羽小だけでなく、八幡小、王子小の8家族19人が参加。日曜日開催という事で、ご夫婦での参加も5家族。子供の吃音の問題を、家族で向き合いことができ、お母様の心理的御負担も減った事でしょう。小学生、中学生、高校生それぞれに分かれての午後2時間の話し合いは、つどいで最も大切にしている、吃音への向き合い方・上手な付き合い方・知恵を学ぶ時間(逐語録ご参照)です。午前のお料理作りや共に食べることで、話し合いのための関係性・ラポールも作れたことでしょう。2年ぶりに再開できたつどい。その意義を再確認するような言葉が等身大に紡ぎ出されたように思います。

<https://kitsuo-tsukiau.org/blog/archives/1307>

(代表 佐藤隆治)

「ことばの教室では聞けない話」

練馬区北町西小6 A君のお母さん

吃音のつどいありがとうございました。今回初めての参加でしたが初参加の方も多く、色々な方とお話出来て嬉しいです。最初のエンカウンターゲームも、緊張していた子供も楽しく会に入っていけて有難いです。

子供が吃音で、親は吃音ではないため、家での接し方等、ことばの教室だけでは聞けない話を沢山聞けました。息子も大きくなっていく中で、このような集いがあり、悩み等相談できれば有難いです。皆様お忙しい中、つどいの開催をありがとうございました。

家で「吃音についてオープンに話す」際に

Q. 子供が言葉が出にくい時、「大丈夫だよ」とか『ゆっくりで良いんだよ』とか、どう声をかけて良いのか分からない。

A. 「大丈夫だよ。普通に喋れているよ」と伝えるのは、はぐらかされた気持ちになり、良くないでしょう。

例1. 「つかえながら、どもりながら話しても、気持ちがこもっていれば、お母さんには意味は伝わる・分かるので、心配要らない。あなたがどれだけ、どもるのか？に、関心有るのではなく、そんなことはどうでもよくて、あなたの話の中身をお母さんは聴いているのだし、まず聴こうとしているんだよ」

例2. 「慌てて・急いで言おうとしちゃうことがあるかもしれないけれど、お母さん、話の中身を楽しみにして待ってるから、自分のペースで話せばいいんだよ」

埼玉県松山第一小2 B君のお母さん

今回初めての参加で、親子共々大変緊張をしておりました。参加したのは、仲間がほしい・居場所がほしい・先輩方の情報がほしい、といった理由が主でした。親子別々の活動だったので、最初不安はありましたが、皆様と関わる時間も多かったので、私も息子も打ち解けることが出来たように思います。

子供の話し合いもとても学びがあったようで、帰ってきってから刺激を受けた様子が表情から伝わってきました。沢山の子供の意見を聞けたこと、同年代の吃音者と関わった事は貴重な経験になったと感じます。

さらに、夫と家族で参加できたことも大きな経験になったと感じました。私の方が子供と関わる機会が多く、吃音の波にさらされる時間も長かったので、中々夫と自分の悩みを共有することが難しいと感じていました。しかし、夫

も話し合いに参加し、子供達と関わる中で発見や学びがあったようです。帰宅後そのことをお互いに話し合いましたが、私はそういった時間を持てたことがとても嬉しかったです。

つどいアルバムも拝見しました。参加して以来、良い意味で吹っ切れたようで、コミュニケーションも積極的に取るようになり、私どもも大変嬉しく思っています。

品川区戸越小3 Cさんのお母さん

つどいでは、ありがとうございました。娘が今でもあの日の話をします。何より、**お姉さんのお友達ができたこと、大好きな料理をみんなと一緒に作れたことが**大変嬉しかったようです。

大人側からすると、少し長いような気もしましたが、娘にとってはちょうど良い充実した1日になったように感じます。新学期、どきどきしながら学校に行きました。担任の先生も変わりましたので、また娘の吃音についてお知らせしようと思っています。

八幡小4 D君のお母さん

行く前までは「どのような会なんだろう。。子供も不安に感じているかなあ」と思っていたんですが、代表の佐藤さんをはじめスタッフの皆さんがバワフルで元気いっぱいに接してくれたので、終始穏やかな気持ちで楽しく過ごせました。

会が終わってからも「クッキングであんなことしたよ。あれもこれも僕がやったよ!」と自信気に話してくれたので本人にもとても良い効果があった様に思います。また初めて会ったお友達ともあつという間に仲良くなったようで「次回会えると良いね」と言うと、「絶対行く!」と即答でした。私自身も周りの**パパさん、ママさんや当事者のスタッフ**の方の貴重なお話を大きくうなずきながら聞け、とても勉強になり、これからの生活でとても有益な物になったと感じています。

昨日は楽しかった余韻にまだまだ浸りながら、子供と**キーマカレー**と**ナン**を作ってみました。(^^) 皆様当日までの準備等本当にありがとうございました。

埼玉県与野本町小3 Eさんのお母さん

我が家は、吃音は無く、構音障害・場面緘黙での参加でしたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。保護者の話し合いも、構音障害の経験者さん(つどいスタ

ップ)からのお話も大変参考になりましたし、グループでの保護者の方も自分と同じような悩みを抱え、試行錯誤していらっしゃるのだなとわかり、励みになりました。吃音も緘黙も成功体験を積んで自信を持って欲しい事、より良く生きていくために、もっと症状について知りたい事等、また他のお子さんとの関わりなど勉強になりました。

娘も午前中のお料理作りが楽しかったと言っていました。スタッフの方が料理中のお写真を見せてくださったり、ご自身のスマホで子供と文章でやりとりしてくださったり、最後の挨拶時に子供の横で、できるか聞いてくださったり、丁寧にサポートしていただき本当にありがとうございました。

学校のこういうレクのような会では、娘は写真に写りたがらないし、マスクも絶対に外さないのに、今回「HPブログに載せる写真撮りますよー」の時に、マスクを外してスタスタと列の中に自分から入っていったことに感動しました。多くは語らないけど、本人なりに、深く心に届くものが有ったのだと信じています。

佐藤さんの、吃音はなくならないかもしれないけど、より良く共存していく事はできるみたいな感じに仰っていたのが、吃音を緘黙・構音に置き換えて聞いていました。会に参加した事で以前よりももう少し前向きになれた気がしました。また参加したいです！

もう一つ、新学期の保護者会で子供の状態を伝えるかどうかを、つどいの場で相談したのですが、皆様に色々アドバイスをいただき、伝えてみることにしました。発音が分かりづらい部分があること、本人がそれを気にして人としやべるのに抵抗があること、緘黙のことを簡単に説明しました。そうしたら、うんうんと頷いて聞いてくださる方が多くいて、保護者会が終わった後に、「お姉ちゃんが以前ことばの教室に通ってたよ。今は放送委員やってるよ！大変だけど頑張ってるね！」と声をかけてもらえました。

つどいのおかげで、一歩踏み出す勇氣を持つ事ができました。そして踏み出してみたら、思ってたよりも大した事ない、そして理解してくれる人はいるという事が気付きました。参加した皆様にやさしく背中を押してもらえたこと、1人じゃないと思えた事がとても大きかったと思います。つどいの活動、応援しています😊

F君(中1,練馬北町西小卒)とお母様へ

元池袋小ことばの教室・つどいスタッフ 松村玲子
ご無沙汰しています。あかねの会(児童発達支援)で4年間ほど、話をしたり、発音の練習をしたりしました。

つどいの写真を見て、何事にも一生懸命なF君の姿が思い出されました。そのF君に静かに寄り添っていらしたお母さまの姿。発音が改善してから、吃音での悩みや向き合い方等を話題にしたり、好きなことについてたくさん話をしたりしたことを覚えています。大相撲のニュースが流れると大相撲博士のF君のことを思い出します。相撲について沢山教えてもらいました。

今は中学生になり、これからいろいろなことに興味をもって楽しんでほしいと思っています。中学校生活3年間は短いですよ。話すことが好きなF君、吃音で話し辛い時があっても工夫して自分の考えや思いを大切に表現してほしいと思います。悩んだ時にはご両親やつどいに相談して、のびのびと過ごしてください。

中学生グループ(話し合い逐語録)

中学生4名(学年は3月時)+スタッフ3名

G君(中2,北町西小卒) 趣味は鉄道関係

Hさん(中1,赤羽小卒) 趣味はアニメ鑑賞

I君(中1,埼玉県小川町小川小卒)

趣味は電車を見ること・剣道部

J君(中3) ずっと野球をやってきた

田中宏昌(スタッフ) 小学生の頃からつどいに参加

趣味は鉄道で、仕事も鉄道関係

山田舜也(スタッフ, 東京大学先端科学技術研究センター連携研究員・吃音研究)

大森真梨萌(スタッフ, 足立区中川東小ことばの教室教諭)

山田 みんなに聞いてみたいことや困っていることは？

J君 高校受験は筆記のみで面接は無かったが、今後、大学入試や就職で面接の際、吃音があるからどうしたらいいか。

田中 理解ある面接官も多いと思う。自分の場合はエントリーシートに吃音のことを特に書かなかった。

大森 実際に働き始めてから、同僚に吃音のことは伝えた？

田中 周りには特に話していない。職場に自分の他に吃音だろうな、という人もいるが、特に話題にしていない。事務系の仕事ということもある。緊張して話せない時もあるが、みんな待ってくれるし、プレゼンや電話業務から外されることもない。

山田 自分が受験や就活をした頃は、合理的配慮という考えがまだ広がっていなかった。英検を受けた時にかなりもったが、点数を大幅に引かれることはなかった。就活の面接は、吃音の研究をする仕事だったため、自分の吃音のことはある程度伝えていた。

大森 お昼を一緒に食べた専門学生スタッフ(埼玉篠津小ことばの教室卒)から、先に吃音があることを伝えた方が楽だから、備考欄があるエントリーシートだったら、そこに吃音のことを書いて、備考欄が無かったら、面接の始めに言うようにしている、と聞いた。

山田 吃音のことを伝えたことはあるか？

Hさん スピーキングテストではないが、入学してすぐの自己紹介で、吃音があると伝えた。説明がふんわりしていたからか、何回か「その喋り方何？」って友達から言われて、傷ついた。

大森 「その喋り方何？」って言われて、どう返していた？

Hさん 返すのが面倒くさくなって、「ハハー」って笑ってやりすごしたり、話題を変えたり。

I君 「吃音があって、言葉がつまることがあるけど、よろしくお願いします」ってクラスで話して、先生が分かってくれた。それでも話し方を真似してくる人はいるから、笑って流している。

山田 笑って流すのも、サバイバルとして悪い方法ではないと思う。

J君 一度も吃音のことを伝えたことはない。友達から言われたことはあるが、気にしたり、傷ついたりはない。

G君 最初の自己紹介で伝えた。

山田 もしも話し方について聞かれたら、どうする？

G君 実際に言われたことはないが、もし言われたら、その場では返さず、親に相談する。

I君 無視する。そんな人に関わるくらいなら、違う

ことした方がいい。

J君 聞かれたらその都度、「吃音っていうのがあって、こうなっちゃうんだよね」って言った方が良いと思う。

田中 自分もその都度説明するけど、その場の雰囲気もあって言いづらい場合もある。

山田 自分も中学生の頃は言えなかったと思う。でも、将来は自分で環境調整していく必要があるし、その準備という意味で、説明できた方が良いのかも。

大森（Hさんへ）「その喋り方何？」って聞くのは、自分が仲良くしたいと思う友達？

Hさん はい。仲良い子と話してて、急に言われることがある。吃音の説明をすると、重い話で雰囲気を壊しちゃうかもって、ためらう。

J君 学年が上がるとみんな大人になるし、お互い分かってくるから、あまり心配しなくて良いと思う。

田中 一度しっかり伝えれば、その友達も吃音のことを説明する側になってくれるかも。

山田 吃音があるってことは「発表場面で練習が足りない」とか、「何回も練習すれば大丈夫」とか、間違った知識や思い込みで自分が不利益を被らないように、正しく説明することが大事だと思う。

I君 ポスターを作って、自分の学校や隣の学校の廊下に貼って、吃音のことを理解してもらったことがある。吃音の症状についてと、どうして欲しいか（**どもった時は、待って欲しい**）、パソコンで作った。

J君 効果あった？

I君 うん。みんなから「ポスターあったね」って声をかけられた。自分から吃音のことを言わなくても、みんなに知ってもらえた。

Hさん 自分から吃音のことを話すのは勇気がいるから、今の話を聞いてポスターは良いな。

G君 みんなは、**どうやったら言葉が出やすくなるか？**

Hさん 語順を変えたり、そもそも言葉を変えたりしている。

I君 吐く息に合わせて、言葉言う。

大森 話すたびにそういう風になっているの？

I君 緊張する時や、発表する時にやっている。

J君 「サ」行の言葉が言いにくいから、言いやすい別の音の言葉に変えて言う。

田中 言葉の言い換えや、呼吸に合わせる工夫をすることがある。吃音を隠す必要はないと思いつつも、**どもって時間を使い過ぎてしまう…という時に**やる。

山田 自分も吃音を隠すためというより、その場で自分の気持ちを言いたい時に、言い換えたり息を整えたりしている。

G君 自分がやっているやり方を、みんなもやっているんだなって思いました。

田中（J君へ）**高校生活で気になることは？**

J君 中学はいろんな子がいたけれど、高校は学力水準が同じくらいの子が集まるから、逆に安心している。むしろその先の**大学のプレゼン**とか、就職の面接などの方が少し不安だが、平気だと思う。

山田 大学のプレゼンはとても苦労した。言い換えなど話し方の工夫はするが、苦しいという気持ちをどうしたらよいかで悩んでいた。なんやかんやでやっていたが、当時苦労していたことは確か。**「堂々とどもりながらも、しゃべっていいんだ」という考えになって、苦しさから解放**

された感じがある。

田中 自分自身との向き合い方が大事。自分が「**どもっていいんだ！**」と思えることが大切かな。みんなも、だんだんそういう風になっていくかな…？**吃音を理由に、何かを諦めてしまうようなことが一番もったいない。**

山田 そう。話し方よりも、話す内容が大事。

山田 **プレゼンや発表の機会はあるか？**

I君 4月に部活紹介（剣道部）で劇をやることになっていて、セリフの多い役になった。自分からその役を希望したが、どもって、変な風に思われないか、心配。（⇒「声出て来ない時は、先輩が気を利かせて、セリフと一緒に言ってくれた」と、後日スタッフがお聴きした）

大森 **どもったとしても、しっかりセリフを言い切って、入部してくれた後輩たちに、吃音のことを説明したら良いんじゃないかな。**

Hさん **プレゼン重視の学校**なので、毎週資料を作って発表している。**どもるけれど、吃音のことを分かってくれる子もいる**から、なんとか日々やっている。

G君 発表で言葉が出にくい時は、友達が**静かに待って**くれている。

山田 **吃音で良かったことはある？**

J君 自分が吃音だったからこそ、他にも何かで不自由している子のことも見えるようになって、「こういう子もいるんだな」「こういう考え方もあるんだな」って、**人間的にも、性格的にも成長できたな**と思った。

田中 つどいの仲間にも会えたり、人間関係が広がった。

I君 剣道部にも吃音の先輩がいて、仲間がいるなって嬉しい気持ちになる。

G君・Hさん 特に無い。

田中 **将来の夢**はある？

J君 父が警察官なので、自分も公務員になりたい。

Hさん 化粧品系の仕事に就きたい。小5のピアノの発表会前に、母にリップを塗ってもらって勇気が出たから。

I君 鉄道関係の仕事に就きたい。小さい頃から踏切が家の近くにあって、電車が好きだった。

G君 電気系の仕事に就きたい。元々鉄道が好きで、鉄道の動く仕組みを調べている内に、電気の方に興味が湧いた。

山田 みんな夢があって、しっかり語れることがすごい！

田中 就職で吃音が心配なこともあるかもしれないけれど、今は吃音が就職で不利にならないようにという法律があるからね。

山田 これまで、吃音のことで悩むこともあったけれど、それが悪いことではないからね。

感想

G君 今後の吃音との付き合い方を考えたり、他の人の考えを知ったりして、有意義な時間だった。

I君 みんなで吃音のことを共有できて良かった。

J君 自分と同じように吃音がある人と、いろいろ共有できて良かった。

Hさん 普段吃音の人が周りにいないから、自分だけじゃないって安心しました。

つどい後・番外 Q & A

Q. 仲良い子と話してる際、「その喋り方何？」と聞かれ、真面目に吃音話すと雰囲気暗くなりそう…。どうすれば良い？

A. 友達に真面目な話、真剣な話をするのは、すごく勇気がいると思います。私も中学生の時、吃音のことではないけれど、友達からからかわれていたことがあって、それをやめてほしい、この状況をなんとかしたい、信頼できる友達に相談するかどうか、しばらく悩んだ末に、勇気を出して話したことがありました。

「こんなこと話して、余計にからかわれるんじゃないか、友達からどう思われるんだろう」と不安でした。でも、いざ話してみると、友達は真剣に話を聞いてくれて、解決に向けて一緒に考えてくれたり、自分は間違っていないだと自信がもてたりして、そのあと状況が良くなっていったことがあります。

今となっては、「もっと早く友達に話をすれば良かった」と思うけれど、少し悩んだり、時間がかかってもいいので、この人には、ちゃんと伝えたい、分かってほしいという人に話をすれば、きっとその人にはHさんの吃音のことや悩んでいること(吃音以外のことも含めて)理解してくれると思います。

話し合いの時に出了、ポスターを作って相手から話しかけられるようにキッカケを作ってもいいし、手紙やラインで「相談したいことがある」と直接話さない方法で第一声を投げかけてもいいと思います。「今のままだとなんとなくモヤモヤするな」という状況であれば、Hさんに合ったやり方で、ぜひアクションしてみてください。応援しています！

大森真梨萌（中川東小ことばの教室）

Hさんへ

スタッフはHさんよりも、おおよそ15年または20年以上長く生きてきた。ということは、クラスの友だちとの人間関係の悩みに関しても、長く生きてきた分だけ、「先輩」だ。仮に当事者でなくとも、思春期只中の気持ちを少しは理解できるだろうし、悩んでいる「後輩」を放ってはおけない。「先輩」も傷ついてきた。そしてだからこそ今があるのだ。傷つき悩むのはHさんだけじゃあない。佐藤(スタッフ)

埼玉県人権擁護委員連合会 さいたま地方法務局

人権作文応募作品

「吃音とは」 I 君(中2、埼玉県小川小ことばの教室卒)

僕には吃音があります。吃音とは、言いたい言葉が詰まって出なくなってしまうことで、「ぼ、ぼ、ぼ、ぼくは」とか「ぼーくは」とか「……ぼくは」みたいな色々な症状があります。吃音はだいたい百人に一人ぐらいいます。言葉が詰まることはすごく辛いことで、小学校低学年の時は言葉が出なくてまねされたりしたことがあって、お母さんに相談したりした。そして、先生が僕のいない所で、みんなに「I君は吃音があるよ」みたいな事を伝えてくれたりした。

さらに高学年ぐらいになったら、それじゃだめだと思って、自分で周りの友達に伝えたりしたけど、新しく転校してきた友達に「君、日本人？」って言われてすごく嫌な気持ちになりました。そう言われたから僕は吃音のことを伝えようとしたけど、その時はまだ伝える勇気がなくて、そのまま家に帰ってお母さんに言って、先生にまた伝えてもらった。その時は「なんて勇気の無い人間なんだろう」と考えたこと

がありました。

だけど、六年生になった時にことばの教室の先生に勧められて、吃音のことをまとめたパンフレット(ポスター)を作りました。それが大成功して中学校にその紙を貼ってくれたり、小学校のろう下にも貼ってもらったりして、とてもうれしかったです。中学校に入ってからはその紙の影響があって、先輩とかが吃音のことについて聞いてくれたり、部活とかでは配慮をしてくれたりして、その紙の効果があったんだと思って、とてもうれしかったです。

それから僕は元気がついて、自己紹介の時に吃音のことを言えるようになったり、部活の顧問の先生にも吃音のことを言えるようになりました。多少文句を言われたりすること(例えば、言葉が詰まった時、部活の先輩に「ちゃんとやれよ・話せよ」とか言われたこともあるけど、僕はその時は、自分で説明したりできるようになったので、少し成長したなと思いました。部活動紹介の時に自分は言うセリフがあって言葉が出ないことがあったら、先輩が話すのをサポートしてくれてセリフを言うことができました。

人生大変なことはあるけど、吃音のことを伝えたいのに、自分の持っている個性とかを相手に伝えたりすると、すごく自分に自信がついたり、これから困ったことがあれば助けてくれる時があると思いました。あと困った時があれば相談をするといいなと思いました。世界には色んな人がいるので、一人一人の個性とかを理解し合うことが大切だと思いました。

高校生グループ

K君(高2)

小学生の頃に参加して以来、久しぶりの参加だったので、最初はとても緊張していましたが、皆さんが温かく接してくださったおかげで、リラックスして過ごすことができました。また、「どもって良い」という環境だったことが、とても良く、助かりました。普段は話すことに不安を感じることもありますが、安心して自分のペースで話すことができました。さらに、同年代の方々との話し合いを通して、「自分だけではない」と思うことができ、安心しました。自分の吃音や将来について改めて考えるきっかけにもなり、とても有意義な時間になりました。

活動の中で、みんなでカレーを作ったことも印象に残っています。協力しながら作業をする中で自然と会話が生まれ、無理をせずに話すことができたことが嬉しかったです。自分達で作った料理は美味しかったです！このような機会を作ってくださったスタッフの皆様に感謝しています。また機会があれば、ぜひ参加したいです！

K君(高2)や中高校生の皆様へ

K君、つどい参加ありがとうございます。短い時間しか話せませんでしたが、普段勉強を頑張っていることが伝わってきました。吃音があると勉強への集中力が途切れてしまうことがあるかもしれませんが、目標に向かって真っすぐ進んでほしいと思います。徳永 成和(スタッフ)

【提案】自身の吃音にまつわる 授業態度

①手を挙げるかどうか？

発表してみたい…(準備はしてきているので内容的には問題無いだろう…。いやむしろ内容について自信は有る・一番の得意科目なのだ。クラスの消極的な空気を打ち破

りたい…等)感じたならば、**挙手しよう**。吃音理由に手を挙げないのは勿体無い。数分のささやかな発表だが、地道かつ真摯な繰り返しが学習内容の定着・プレゼンスキル向上につながる。

②席(名簿)の順番に当てられる場合

予期不安に押しつぶされそうになり…、授業の中身に集中できない…場合、「**その時に考えられる答えをどもりながら言えば良し・指示された部分をどもりながら読めば良し**。先生が求めているのは**話す中身だ**。授業の中身に集中しよう」と自身に言い聞かせる。その時その時の症状に、ありのまま委ねよう。クラス担任や仲の良い友達に、吃音をカミングアウトしておく、さらに安心。 **佐藤、遠藤(スタッフ)**

高校「自己開示スピーチコンテスト」発表原稿

「大好きな先輩へ」Lさん(専門1年、三鷹市南浦小こたばの教室卒)

私には、大好きな先輩がいます。その先輩は〇〇先輩です。今日は先輩に今までの感謝を伝えます。この場を借りてお話をさせてください。先輩とは、ラグビー部の仮入部の際に初めて知り合いました。初めての仮入部で緊張している私に優しく声をかけてくれました。その後も丁寧に仕事を教えてもらいました。私も先輩のように「変わりたい」と思い、ラグビー部に入部しました。

去年の六月頃、先輩と一緒にジャージ回収をしました。ジャージ回収とは、試合後に部員さんが使ったジャージを回収し汚れ等がないか、全員持ってきているかの確認をする仕事です。その後の報告を任せられ、先輩と一緒に監督に報告へ行きました。報告時につまって言えなくなってしまい、先輩に頼ろうとしたら「話せないマネージャーはいらない」と言われたことがありました。

言われた当初は、もうどうしたらいいのかわからず頭が真っ白でした。先輩は私が一人で言えるようになるまで朝、昼休み、放課後と一緒に練習してくれました。その中で、私の悩みを聞いてくれたり、必要なことをたくさん教えてもらいました。私が「**皆や先輩にも、つまっている所を見られて引かれるのが怖い**」と言ったら、先輩は「**引かないよ**」と言ってくれました。私はその言葉がとても嬉しくて今でも覚えています。その後、先輩と練習したお陰で一人でも報告が言えるようになりました。このことがきっかけで私の中で先輩は大切な存在になりました。

その後の部活ではタイムのコール「あと 5 分!」を大きな声で言うことが課題でした。私は、人前で話すことに抵抗がありました。そんな私と、先輩と一緒に練習してくれました。最初は短い距離で話す練習、次は遠距離で大きな声で話す練習をしてくれました。だんだんと自信を持てるようになり、一人でコールを言えるようになりました。私が言えるようになったのは長い時間、一緒に先輩が練習してくれたおかげだと思います。先輩は本当に色々な場面で支えてくれました。この前、文化祭の慰労会での振り返り作文が言えた時、先輩は泣いて喜んでくれました。私は、それがとても嬉しかったです。

先輩! 2 年間、先輩と関わったこと、一緒に部活ができたこと本当に良かったです。ありがとうございました。卒業後もたくさんご飯に行きましょう! これでスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。

補足: 高2の時、全校生徒 200 人の前で発表。このコンテストは、3 年間の中で 1 回は必ず出なきゃいけないもので! 出たい人は 3 回出ても良い。私は人前に立って話すことに慣れたかったので

3 回参加しました。クラブで話せるようにはなったが、吃音が治ったということではありません。(Lさん)

〈感想〉脇 瑠花(高校生グループ スタッフ)

高校での毎年の成長が漫画の主人公のように輝き、大人の私にも大きな勇気をくれたLちゃん。

吃音を隠して一人で孤独に耐えていた私の高校時代も、信頼できる先輩に打ち明け、しんどいことも前向きに乗り越えてきたLちゃんの姿に、勝手ながら救われた気持ちです。

Lちゃんのひたむきな頑張りは、私だけじゃなく、みんなが知ってます。本当に誇らしいよ。生まれてきてくれて、出会ってくれてありがとう。

卒業おめでとう。これからもずっと応援しています。

浅倉 万緒(高校生グループ スタッフ)

皆さん、こんにちは。今回のつどいで初めてスタッフリーダーを担当します。私は、吃音を持っているわけではありませんが、生まれつき軽度の脳性麻痺を持っています。

私が自らの障害について持っていた考え方について、今回お話しさせていただこうと思います。私は脳性麻痺を持ってはいましたが、早期からのリハビリテーションのおかげもあり、その症状はかなり軽く、側から見ても、「普通に運動神経の悪い人」といった具合に見える程度でした。ですが、だからこそ、私は自分に障害があることについて、他者にカミングアウトするのに抵抗感を感じるようになってしまいました。つまるところ、わざわざ自分から言わなければ、障害を持っていると相手に知られることはないため、相手にとっては「障害者ではない自分」でいられると私は考えていました。

これまで私の周りにいた人たちはみんな優しく、何気ないことでも気遣ってくれるような人も多かったのですが、私はそうして気遣いを受けることがとても申し訳ないと感じていました。私のせいで気を使わせてしまっている、ということがずっと自分の負い目になっていました。そのため、障害を持っていることを言わなければ、知られなければ、私と他のみんなは「同じ」で「対等」なのではないかと感じ、障害のことを伝えるのが憚られるようになってしまいました。

しかし、吃音を持っている妹を通じて、つどいに関わって、「**吃音を持っても、どもりを隠さなくて良い**」という考え方に衝撃を受けました。私自身の持っていた障害に対する考え方と真逆だったからです。つどいの主軸として考える考え方に触れ、私自身も少しずつ、障害に対して過剰に引け目を持ったり、隠そうとしたりしなくて良いのではないかと考えられるようになりました。考え方を変えるきっかけをくれたつどいと、つどいに関わっている皆さんには感謝しています。

御両親グループ

小3男子のお母さん

参加できて、ほんと、良かったです。また、次回の開催を心からお待ちしておりますので、決まり次第、ご連絡いただけたら嬉しいです。

佐藤さん自身、当事者で、バリバリ吃音が出ているのに、普通に話していて、これで良いんだよねと思いました。

石田さん(スタッフリーダー)も当事者だったこと、後で、今さらながら、案内のチラシを見て知りました。

最後の感想を言い合う時、吃音だらけで笑えました。すみません、否定的な意味では決してありません。吃音でも、みんなの前で発表しても、ここでは、特に、誰も何も言わない。むしろ、うんうんと聞いてくれる。そんな場所に、なんだか安堵の気持ちからの、微笑みの意味で、笑えました。こんな表現で伝わりましたかね。

いつも、息子が人前で話す時に、私がハラハラしているのです。周りにどう思われたらどうか、と。本人以上に、今は、私が気になっています。それが、ここには、無かった。今回は、息子と参加出来たら良いなと思いました。

また、石田さんの涙を見て、大変、申し訳なく思いました。かなり軽い気持ちで参加したので。しかも、遅刻での参加。(今回のつどいの成果は)涙以上なものになったと思っています。準備等、ありがとうございました。

吉田 雅代

(朝日新聞連載『強敵キッツオー』のお母さん)

10年以上ぶりに参加させていただきました。吃音の次男と一緒に初めてつどいに参加したのは、次男が小2の時。それから年に3回(4回?)、小5までは親子で毎回参加していました。(その後は、母の私のみでたまに顔を出す程度)

私達にとって思い出の懐かしい場所は、時を経ても変わらず、温かく居心地の良いところで、一気に当時のことがよみがえりました。私達はつどいにどれだけ救われてきたかわかりません。

保護者の話し合いでは皆さんの不安や悩みを色々伺いましたが、吃音当事者や保護者を取り巻く状況は良くなっているように見えるのに、どうして当時の私(20年近く前)の思いと全く変わっていないのだろう?と複雑な気持ちになりました。一体どうしたら当事者、保護者がもっと楽に日々過ごせるようになるのでしょうか?

次男は現在26歳。あの頃一緒に参加していた仲間達、後輩達は、今回はスタッフとして大活躍!自信に満ち溢れて活動している姿を見ることができて本当に嬉しかったです。彼らの成長ぶりにも驚きましたが、参加していた子供達もこんな風に育っていくのでしょうか。

最後の感想発表では、一生懸命話す小学生の姿が当時の次男とどぶり、思わず涙があふれてしまいました。

今後は年に1回ほどの開催になるかもしれないと伺いましたが、一保護者として、昔のようにもっと頻繁にあったら良いのになと思います。(スタッフの方々は本当に大変だと思いますが)このような場所は絶対に必要です。どうかこれからも沢山の子供達、保護者達の心の拠り所として、変わらずあり続けてください。

朝日新聞 全8回連載『強敵キッツオー』

<https://kitsuo-tsukiau.org/blog/archives/407>

「どもる人として生きていく」

徳永 成和(御両親Bグループスタッフ)

先日は2年ぶりのつどいで貴重な時間を過ごすことができました。皆様からのお話を聞く中で改めて当時の自分の吃音を思い出し、最大の悩みであった吃音に対する考え方が現在に至るまでどのように変わっていったのか、振り返る良い機会にもなりました。

私は大学4年生まで吃音に非常に強く悩まされ、話す場から可能な限り逃げるほど、人前で話すことを嫌ってい

ました。当時は話すこと以外でも、何かに失敗すれば結局は吃音に原因があるとみなすような他責思考で、全く根本的な問題に向き合おうとしないまま年月が過ぎていきました。

しかし環境が変わり大学で発表する機会が多くなったことで、これ以上問題を放置すれば近いうちに限界が来ると感じ、ようやく行動を起こすことを決心しました。2015年5月、つどいのスタッフに誘われて事前ミーティングに初めて参加したのですが、スタッフがどもりながらも堂々と話しながらコミュニケーションを取っている姿に衝撃を覚えました。

なぜあれ程どもっていても隠そうとせず、普通に吃音を出しながら話していけるのか。私はそれまでできるだけもらず流暢に話すことを「善」としていたので、不思議に思うのと同時にある種の好奇心を持ちました。「こんなにどもって話しても大丈夫なのか!」あの時の場が、自分の吃音に対する考え方が大きく変わるためのきっかけとなりました。どもって話すことは格好悪くてみっともないという固定観念に長い間縛られていたと気付くことにもなりました。

その後スタッフとしてつどいにに関わり、多くの方からお話を聞くことで、少しずつではありますが、新しい考え方を取り入れていきました。自分の中からむやみに吃音を消し去ろうとせず、吃音と上手に付き合っていこうという意識を持つようになれば、より自分らしく、より充実した人生を送れるようになるかと理解していきました。そして日々の生活においても、どもりながら自分の意思を伝えるという選択を取っていけるようになりました。

現在は医学部に入学し直し、日々病院で実習を行っております。たいいていの診療科では学生も毎朝カンファレンスで発言する必要があるため、事前にカルテを見て準備を行います。「内容こそ良ければ、どもりながらも問題は無い」という考え方でカンファレンスに臨んでいても、実際に始まるとやはり緊張感は高まってきます。しかし患者さんの現在の状態や治療方針について、その場にいる全員が正確に理解できるように必要事項を共有するというカンファレンスの主旨を考えれば、どもるかどもらないかということよりも、伝える内容自体に注意が向いてきます。おそらくそのために、毎回どもりながらもではあっても、緊張で何秒も話し出せないということは起こらず、特に問題が起こることなく終えられています。自己紹介やカンファレンスなどの場で吃音がオープンになることへのストレスは決して小さくはないのですが、まずはどもる自分を認めつつ、これからも目の前のものに集中することを愚直に続けることが大切だと思っています。

また以前通っていた大学を辞めてまで医学の道に進んだ理由を思い返すと、精神的にも常に目標に向かっていくという姿勢を保ち続けられています。この春から5年生となりました。

Q 1. 好奇心を持つとは、未知のものに強い関心をもつことで、モデリングだと思われますが、どなたのどんなところの影響を受けましたか? 派手にどもる人?あるいは派手ではないが、その人らしく誠実な感じでどもる人でしょうか?

A 1. 特定の人の吃音というより、その場にいたスタッフたちが皆どもりの程度に関わらず、どもりを出しながら話している光景に驚きを感じたように覚えています。

Q 2. 「愚直」は、「要領良い」の真逆な言葉ですが、この言葉を選ばれた背景は？

A 2. 「愚直に」、本当にその通りだと思います。代わりとなるような表現は簡単には見つからないと思いました。

つどいは、成人スタッフにとっても、自己の吃音ヒストリーを俯瞰し、意味付けしていく成長・発達の場合。黒歴史のまま留まるのではなく、参加者との相互作用の中、納得できる形を見出していけると素晴らしい。佐藤(スタッフ)

北川 敬一

(『ただ、そばにいる』吃音に向き合うためのドキュメンタリー映像集 制作者、御両親Dグループスタッフ)

保護者の皆さんがお子さんの吃音のことを話す際に、どうしても、「なおる」ということばが、出てきます。

話さなくなるより、**どもってでも話すことが、大切なこと。**話し方より、**話す時の気持ち**が「**なおる**」ことがとても大切なこと。などを、お話ししました。

印象的だったのは、「お子さんの好きなこと」を話される保護者の皆さんの、優しく嬉しそうな表情でした。また、「つどい」でお会いできればと思いました。

目黒区東根小ことばの教室卒 女子のお母さん

(御両親Dグループスタッフ)

20 年前に「つどい」の門をたたいた時、娘は受付でスタッフの吃音のシャワーを浴びて、(娘の)心の霧が晴れていくような感覚を隣にいて感じました。それまで娘は自分以外に吃音者がいる環境というものが無かったので、たぶん心を閉ざしていたのだと思います。それが解放されたのが「つどい」との出会いでした。まさに「つどい」へのひとめぼれ、ですね。

久しぶりに「つどい」の皆さんとお会いしました。今回初めて主催側スタッフとして参加し、その周到的な準備に感服しました。本番のために何回も話し合いを重ねたことがよく分かりました。

私はデザート班に入りましたが、リーダーの森田さん、南木さんが密な相談をしつつ、スタッフ初心者の私達にも都度情報を提供してくださり、とても動きやすかったです。当日の作業は練習時よりもスタッフが増えていましたが、お互い声をかけつつ限られた時間でうまく回ったと思います。きっと災害時の自主的な行動というのはこういう感じなんだろうなあ、と眺めていました。

「吃音」菅原 亮一

(中野区桃園小ことばの教室卒、小学生高学年グループスタッフ)

20 数年前、私は当時小学 3 年生。吃音を自覚した。体を震わせて顔を真っ赤にしないと喋れない。時には体が痺れ、頭が割れるような痛み、重度の難発だとわかった。

喋るたびにクラスから笑い声が聞こえ、その笑い声の中には心配する声もあれば、嘲笑うような声もあり。なぜか物を隠されるようなこともあったため、耐えきれなくなり、少しずつ学校を休むようになった。

当時母が吃音を持つ著名人の記事のスクラップを集めて見せてくれた。

「俺の気持ちの何がわかるんだよ、当事者でもないのに出しゃばるなよ」

文言を良くは覚えていないが、母に向かって、泣きなが

らひどい言葉を投げつけたことを今でも覚えている。

テレビだったか、新聞の記事だったか覚えていないが、**小倉アナウンサー**が吃音ということを知った。何度もテレビで見た顔のアナウンサーが吃音。テレビでは吃らないけど家ではすごく吃るらしい。正直信じられなかった。

この人はどうやって吃音を乗り越えたのか、吃音とは何なのか。答えがわかる気がした。自分なのか、誰かに頼んだのかよく覚えていない。テレビ局へ電話し、話がしたいと伝えた。当然断られたが、その後小倉氏から何通かファックスがきたのを覚えている。

当時は内容の全てを受け入れられず、結局は話せるようになった人の自慢話で、ただただ心が強い人だったという程度としか認識できなかった。

ファックス文章の中で唯一、今覚えている言葉。

「どもりを出せる人を大切にしろ。母でも恋人でも」

当時はその意味を全く理解できなかった。理解したくもなかった。

時は経ち、高校生まで学校へ行ったり行かなかったり、保健室登校を繰り返していた私も大学 4 年生になり就活を迎える。私は就活の際、役員面接で伝えた。

「吃音があります。だから営業をやらせてください。同じ商品を売るのなら、言葉に、伝え方に悩み抜いた自分の方が売る自信があります」

営業職で採用された。学生時代、自分を笑った奴らを見返してやろうという気持ちが強かった。

約 2 年前から仕事、家族の問題が重なり、私自身体調を崩し、一定期間休むことになった。吃音について考える時間が増え、しんどい時間が増えた。時間ができたことで内面と向き合わざるを得なくなった。

私には長年、「吃音がある自分には人間として価値が無いという」思い込みがあった。吃音が自分の一部だと認められず、仕事に没頭することで吃音を、辛い記憶を隠し続けてきた。本当の自分を抑圧し、その思い込みが大人になっても自分を追い立て続けていた。がむしやりに働いて数字を積み上げ続けていけば、自分の価値を証明できる、過去と決別できる、乗り越えられる、吃音を持ちながら堂々と生きている人たちの様になれると信じていたのかも知れない。

私は吃音を乗り越えようとしていたのではなく、**吃音のある自分を消そうとしていた。**自分の苦しさに向き合うためではなく、それを感じない様に仕事や何かに没頭することで覆い隠していただけだった。それは努力であると同時に、現実からの逃避でもあった。向き合い方を間違えていたと気づいた。無意識のうちに自己否定を重ね、自分を傷つけ続けてきた。休みを経て、私はようやく、自分が長い間自分自身を否定し続けてきたことに気づくことができた。

私は就活の面接以外、当事者以外に自分の吃音を、気持ちをカミングアウトしたことは一切無い。両親にも友人にも、安心して自分の経験を話せる環境を持っていなかった。いくら綺麗事を言っても、吃音は日常生活を送る上でハンデだと思っていたから。隙を見せたら、吃ったら、また攻撃される、前の自分に、過去に戻ってしまうとすら思っていた。

ここで小倉氏のファックスをふと思い出す。そう言えばそんなことがあったなど。私は吃音を恥だと捉えて、流暢に喋れるようになりたい、普通の人間になりたいとしか考えられていなかった。そんな思いに囚われていた。今思い

返すと、小倉さんは「**吃音は自分の一部だと認めてあげなさい**」と、吃音でがんじがらめだった子供を元気づけて、解放してくれようとしていたのかもしれない。吃音は治るかもしれないし、治らないかもしれない。向き合い方は人それぞれだが、今この瞬間、自分には吃音があるという事実をもっと早く認めてあげればよかったなと今は感じる。

将来どうなるかはわからないが、この瞬間吃音がある現

★「**吃音を超えて話したい思い**」>「**吃音恐怖・不安**」という「**接近・回避葛藤**」図式において、左辺大の不等式の状態で乗り越えつつある(乗り越えた)モデルを、参加の皆様、つどいの各所で目の当たりにされましたでしょうか。「ああ、これでいいんだ、うちの子も。こんな事を続けていく事を、私は見守っていれば良いんだ。時折愚痴も聴いたりして、優しく背中押してあげれば良いんだ」と、お母様方お気付きましたように。

「**吃音を超えて話したい思い**」には、話さないと場が進んでいかない…。ならばどもってでも話さざるを得ないという思いが下層に存在する場合も少なくない。

★**カミングアウト**: まずは最も身近な仲良い友人一人に(を選んで)、それとなく打明ける。そしてもしこちらの真意を敏感に感じ取ってくれて、「聴くよ」という態度を見せてくれたならば、さらに深く話してみるというのはどうか？ **スモールステップ**でいく。

★さらに、吃音を「**自己の強み**」の一つと意味付けられているのならば、その強みをさりげなく振舞う。「悩み、くじけそうになるような事も経験してきたが、そのおかげで人の心の痛みに気付きやすくなったかもしれない。辛そうな人に、優しい言葉も自然にかけられる。少々の事で、へこまない様になった」等を、あくまでもさりげなくである。ネガティブな意味付けで合理的配慮を求めようとするのではなく、吃音のおかげでポジティブな意味付けを持ちえたことを、そっと呈示する。

友達関係も、優しくしてもらえる良い友達というだけでなく、逆に、その友達に良いお返しができる・助け合えるようなものを持っているかどうか？ 考えてみるのも良いのではないだろうか。

★改まって、「**吃音です。どもるのです**」が言い辛い場合だが、実際はこのケースがほとんどだろう。授業発表に限らず、クラス場で話す際、当然どもりが出るでしょうが、出ても**悪びれずに、目的本位で発表する**という姿勢・態度を継続して見せるのはどうだろう。目的本位とは、然るべき内容を授業において答える・話すということを、第一の目的とすることだ。どもった/どもらなかつたに関しては、価値を置かないということ。発表した・伝わったという事実、最大の価値を置く。

★⇒するとどうなるだろう？ これが、〇〇さんの話し方なんだと、クラスで認識してもらおう。友達や先生方は、〇〇さんや〇〇さんの吃音について、**色々と感じく**のではないだろうか？

友1「〇〇さんは、緊張のためなのか、ことばがつかえる事がある。実は私も少しあるけれど、私以上に繊細なんだ。

実は受け止め、どう在りたいか、どう生きていきたいのか、小倉さんはそう問うていたように感じる。もう手元にはそのファックスはない。もつとちゃんと読んでおけばよかったな。

注: 小倉アナウンサー 当時、東京 12 チャンネル(TV 東京)のアナウンサー。以降はフリーアナウンサーに。

それでも、発表逃げずにやってるし、私と比べて、随分えらいじゃないか。ガッツが有る。見習いたいかも」

友2「〇〇さんは、今日もいつもの感じで話してる。1年近くになるので、聞き慣れてきたのか、特にもう何とも思わないし、感じない。たまにしんどそうな時も有るように思うが、乗り越えてるんじゃないかな」

カミングアウトするのだと身構えるのではなく、**どもる時は、ふつーにどもりを出す。しれっと出す。「どもるけれど、どうかした(ましたか)?」(And so what?)**という感じ。からかう友達がいた場合も、同様な態度が有効だろう。気持ちを強く持っていく。

★若い女性が、コンプレックスや逆境があっても、向かい風に立ち向かう信念を持ち、諦めず、懸命に、健気に話そうとする行為は、「(人として思わず)応援したくなるような愛おしさ・可愛さ」を感じるものだろう。惹かれる友だち、間違いなくいる(Diana Ross 'If We Hold on Together' 歌詞使用)。いや、若い男性も同じで、ジェンダーは無関係。

★発表内容は、間違いのないものに、しっかり準備しておくこと。**発表の中身で勝負**。「つかえて、やや時間掛かる事も有りますが、最後まで聞いてくれたら嬉しいです」程度ならば、言えるのでは？

親御さんからの「やり切った・言い切ったじゃない。どもりながらも、やりたい事やっていく・話していく。これで良いのよ」という労いや承認的声掛けも、効果的に支えとなる。

★「**吃音とアイデンティティ**」に関して

アイデンティティの定義を、「他人や社会との関わりの中で、自分が自分であるという感覚を持つこと。自分がどういう人物であるかを認識すること。その自分が過去も未来も変わらない感覚」とするのならば、自己の持つ**吃音**を避けては、アイデンティティは語れないだろう。社会との関わりの中、話行為はおおよそ必須だ。

「(どもる自分は)何者になりえて、そしてどのように生きて(食べて)いくのか？」との問いに対して、肯定的・確信的に回答できる状態になることを、「**アイデンティティの達成**」と臨床心理学では言う。どもる我々は、どもらない人と比較して、「吃音」というテーマが追加されるので、その達成には当然ながら時間がかかる。しかし、その分、人としての成熟度が上がっていくとも言えよう(「**雄弁は銀。沈黙は金。吃音はブロンズ**」伊藤伸二他)。

★「**出会い機会への参加の積極性**」と「**モデリング(モデルとする他者の観察・模倣)**」が、手っ取り早いだろうか。つどいとしては、そのような場を、提供し続けたい。例えば、M 氏

(現在大学4年、当時江戸川区大杉小ことばの教室)が、小学3年生時、サマキャンに初参加された際、他に同年男子2人や西谷青空氏(当時文京区金富小)はじめ、大勢のどもる友だちの存在に出会い、「**吃音でも大丈夫なんだ**」との自己効力感を**瞬時に会得**された。「家に帰ってからののはしゃぎ振りにはびっくりした…」は、以前お母様からお聞きした言葉だ。運営スタッフとしては、実にうれしい話。うまく取っ掛かりが準備できたという事になる。

★しかしこの後、実生活において、自身の吃音を本当の意味で、自分のものとして受容に至る過程は、菅原氏の体験にもあるように、誰においても、時間のかかるものとなる。

『吃音のつどい』は、とても大切な場所

瀧田智子(千代田区ことばの教室巡回相談ボランティア、小学生高学年グループスタッフ)

元、都内の「ことばの教室」の担任をしていました瀧田智子です。「**吃音のつどい**」とは、第8回 2000年6月からの長いお付き合いをさせていただいています。ここでは「つどい」のすばらしさをお伝えしたいと思います。

【小学校を卒業した後の支えとなる場所】

通常、「ことばの教室」へ通えるのは、小学生までです。そのため、小学生の間に吃音を正しく理解し、吃音との向き合い方や周囲への伝え方等を学んでいくことはとても大切なことです。

しかし、思春期を迎え、吃音について一番悩む時期は、中学生以降ではないでしょうか？

そんな時に、とても頼りになり、心強い拠り所となる場所が「**つどい**」です。

【世代を超えた交流が、子供たちの知恵となる場所】

「つどい」は、小・中・高・大学生、そして社会人まで、幅広い世代の人が集まり、吃音について語れる場です。同年代の仲間と出会うことはもちろん、何より大きな力になるのが「**先輩**」の存在です。吃音と共に生きてきた先輩たちの姿は、子供たちにとって、将来への**道しるべ**となります。

今年3月に行われた「つどい」でも、小学校高学年グループでは、話し合いの時間が足りないくらいに熱い話し合いが行われました。中学校では教科担任制になり、小学校とは対応が異なるため、6年生が先輩のスタッフたちに、「どのように中学校(先生たち)に伝えたか?」を聞きました。先輩スタッフたちは…

『職員会議で、全校の先生方に知ってもらえるようにと、母親と一緒に文書を作成した』

『教科ごとに「して欲しいこと」は違うので、それぞれ文書を作成し、一人ひとり各教科の先生に手渡した』等と話し、小学生たちは、みんな「なるほど…」と頷いて聞いていました。

【保護者や教師にとって、希望が見える場所】

「つどい」は、**保護者(教師)**にとっても、我が子(教え子)の理解を深め、将来像を具体的にイメージすることができ、安心でき、今やるべきことを一緒に考えることができる場所です。

「ことばの教室」の先生方も、ぜひ一度「つどい」に参加して、大勢の人たちが吃音と向き合う姿を、教室でのグループ活動とは一味違う「つどい」の良さ(素晴らしさ)を、実感してください。そして、スタッフたちと共に「つどい」に協力していただければ幸いです。

Jung 的解釈によると、自我に**影(吃音)**を統合していく過程は、「簡単なものではない。影に直面して、その中に肯定的なものを見出し、生きていこうとする過程は、予想外に苦しいものである。実際にするとなると、なかなか容易ではない」

【**どもり=恥=悪=なおすべきもの**】という、意識下かつ無意識下に根差す**絶対等式**は、「不合理で、強力な情動によって武装された頑強さを持ち、例外を許さぬ偏狭さを持っている。この(絶対)等式に例外を認めることは、人生観の改変を意味する。それが影の統合なのである」。(『ユング心理学入門』河合隼雄、p.105,106 培風館) **佐藤(スタッフ)**

〈お誘い〉つどいという「沼」でのフィールドワーク

代表 佐藤隆治

つどい「沼」に流れている時間に参加してみませんか。今担当している教室の子供達と対比させて考えてみる。何かピンときたものがあれば、担当の子供とどこが同じで、またどこが違うのか？そしてなぜ違うのか？を、その場で考えてみる。

◆当事者と共に、**吃音についての新たな意味**を見出してみませんか。つどいには本番の**演技(役者陣)**は子供達・ご家族等参加の方々+スタッフ)があるが、それゆえ、その**舞台裏**がある。スタッフミーティングや反省会への参加は、舞台裏の開示だ。本番に負けず劣らず、舞台裏・楽屋トークは面白い。ミーティング後のコーヒー店での雑談に加わってみるのも実に良いだろう。

吃音・どもりを日々フツーに生きている大人の生活知を知る。可哀想でもないし、たくましいでもない。『吃音者宣言』の文面のみで解釈してはならない。懸命に生きていると映るかもしれないが、我々なりの生活知を元に、フツーにどもり生きている。生活のディテールを少しずつつ少しずつ積み重ねた後に、ひょっとすると(うまくいくと)劇的な事件が登場するかもしれない。団塊の世代からZ世代までを貫き通す、吃音を生きる者たちの世間知がある。つどいのフィールドでこそ、それが見つけられる。教室の子供たちにも生きるものだろう。

◆そしてことばの教室の先生、教育者というお役目を、つどいでは脱ぐ事だろう。ことばの教室の先生も、一人の人間であり、傷つく・悩むことも、当然お有りだろう。吃音の子供(母親も含めて)のご指導・教育の中、分からなくなってしまう事、もやもやと悩み続けている事もおありだろう。スタッフ(協働パートナー)と沼りながら、気楽な感じで話し合われては如何だろうか。我々にとっても幸せな事だ。 **佐藤(スタッフ)**

2026 お料理教室のつどい 会計報告	収入	支出
小学生・兄弟姉妹参加費(900円*18人)	16,200	
中学生・高校生参加費(1100円*9人)	9,900	
ご両親参加費(1100円*30人)	33,000	
スタッフ参加費(1100円*32人)	35,200	
部分参加スタッフ参加費(200円*1人)	200	
過不足金	1,633	
2024 第90回つどい赤字		704
案内状郵送封筒代		770
案内状郵送切手代(110円*202通)		22,220
事前スタッフミーティング3回経費(お茶代他)		1,730
お料理試作会費用(食材・調理用具・雑貨等)		15,587
名札シール代等		2,476
つどい当日費用(食材・調理用具・雑貨等)		32,018
スタッフ反省会1回経費(お茶代他)		1,229
合計	96,133	76,734
収支	19,399	

会計 原雄一、西谷青空

黒字は次回つどい費用として使わせていただきたいと思います。どうぞご理解いただけますよう、よろしくお願い致します。 **会計**